

外科 後期臨床研修プログラム

1. 研修の基本方針

2年間の初期臨床研修を終了後、3年間の外科後期臨床研修プログラムが始められる。広い範囲での臨床経験を積み重ね、一般外科医・消化器外科医としての診療方法と基本手技に習熟し、適切な臨床判断と問題解決法を研修する。そして、外科標準手術を安全かつ確実に実施できる外科医を育成することが、当院における外科後期研修制度の目的である。

2. 研修の内容

・到達目標

当院の外科系後期臨床プログラムでは次を目標として設定する。

- ① 外科手術と救急診療の経験を通して、外科的な思考方法と術前術後の患者管理を修得する
- ② 外科的基本手技に習熟し、標準手術の執刀医を務める
- ③ 学会発表、論文投稿などの研究活動に従事する
- ④ 日本外科学会専門医を取得する
- ⑤ 初期臨床研修医に対して指導的役割を果たす

・標準手術

研修医の知識および技術の修得レベルに応じて、段階的に術者の経験を積ませる。

- ① 虫垂切除（開腹）、鼠径ヘルニア根治術
- ② 開腹手術（胆石症、胃癌、結腸癌、腸閉塞）
- ③ 乳癌、甲状腺癌
- ④ 鏡視下手術Ⅰ（虫垂切除、胆石症、自然気胸、肺部分切除）
- ⑤ 直腸低位前方切除、腹会陰式直腸切断術、肝切除、膵切除、肺葉切除
- ⑥ 鏡視下手術Ⅱ（胃切除術、結腸切除、肺葉切除）

・当院外科の特色

- ① 初期研修医の段階から積極的に手術経験を積ませており、早い時期から外科基本手技と思考過程を修得することが可能である。
- ② 外科・消化器内科および外科・呼吸器内科合同カンファレンス、医師・病棟および外来看護師・薬剤師・栄養士の多職種で構成される病棟カンファレンスを頻繁に行っており、外科診療にとって最も重要であるチーム医療の大切さを十分認識できる。
- ③ 北大病院消化器外科Ⅰと連携することで、より専門的で症例数の少ない外科疾患や肝移植などの高度先進医療を経験することが可能になる。

外科 後期臨床研修プログラム

・当院外科の手術件数（2011年1月～12月）

手術件数：464件（全麻：450件 ）

（主な手術疾患の内訳）

乳癌：12例（全摘 9例 温存 3例 ）

甲状腺腫瘍：7例（癌 4例、良性 3例）

胃癌：29例（開腹胃切 8例 全摘 8例、LADG 7例 LATG 4例 バイパス 2例）

胃SMT：4例（腹腔鏡 3例 開腹 1例）

結腸癌：49例（腹腔鏡 20例 開腹 29例）

直腸癌：11例（腹腔鏡 7例 開腹 4例 ）

肝癌：4例

胆道癌・十二指腸癌：3例（PD 3例）

膵腫瘍：14例（PD 5例、DP 6例、姑息手術 3例）

虫垂炎：52例

消化管穿孔・腹膜炎・腹腔内膿瘍・イレウスなど腹部緊急疾患：51例

小腸腫瘍：2例（腹腔鏡；1例 開腹：1例）

直腸脱・潰瘍性大腸炎：3例（腹腔鏡直腸固定術・腹腔補助下大腸全摘）

単径ヘルニア・腹壁ヘルニア：71例

胆嚢疾患：59例（LC 45例 LC→OC 7例 OC 7例 ）

良性縦隔・肺疾患・自然気胸：22例（VATS 20例 開胸 2例）

肺癌：35例（VATS 30例 開胸 5例）

3. 当科は下記の学会の研修制度に基づく認定施設です

- ・日本外科学会 外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医制度修練施設

4. 研修責任医師

日本外科学会指導医兼日本消化器外科学会専門医 数井啓蔵

日本外科学会指導医兼日本消化器外科学会指導医 中西一彰